

鬼北町立広見中学校

道德通信

道德主任 酒井 智有

NO. 73

令和8年6月23日発行

よりよく生きる

人権学習の紹介（1年生） 武左衛門一揆

1年生は、武左衛門について学習しました。地域コミュニケーション科の学習（日吉ツアー）でも、大森時政さんから武左衛門の功績について教えていただきましたが、その講演を受けて、学校でも授業を行い、武左衛門さんが目指した理想の社会についてグループで話し合い、話し合った内容を発表して考えを共有しました。



まずは、武左衛門さんについて紹介いたします。

武左衛門一揆（ぶざえもんいっき）は、江戸時代後期の1793年（寛政5年）に伊予国（現在の愛媛県）吉田藩で起きた大規模な百姓一揆です。

＜指導者・武左衛門とは＞

上大野村の百姓です。「ちょんがれ節」などの語り芸で農民を組織し、祭文語りや門付け芸人として3年がかりで各地を回り、同志を募りました。この一揆を成功させた、象徴的リーダーとされています。

＜一揆が起こった背景＞

- ・紙の生産農民への過酷な課税
- ・御用商人（高利貸し商人）による搾取
- ・藩役人と商人の癒着
- ・飢饉や年貢の取り立てなどによる農民の生活困窮

＜規模と特徴＞

参加：約8000人 範囲：藩内全域（83か村）

性格：単なる局地的騒動ではなく全藩規模の蜂起

＜一揆の結果＞

農民側が出した嘆願書の23項目が認められました。（専売制の緩和・負担軽減など）

武左衛門は翌年に捕らえられ、処刑されました（斬首と伝わっています）。

＜歴史的な意義＞

武左衛門一揆は日本の百姓一揆の中でも重要で、①地域全体を巻き込んだ大規模蜂起、②藩政に実際の政策変更をさせた、③指導者像が「民衆的英雄」として語り継がれたという点で、江戸後期の民衆運動の代表例とされています。

「武左衛門が目指した理想の社会とは、どんなものだったのでしょうか」というグループ討議では、次のような意見が出ました。

- 争いなどの起こらない、安心して暮らせる社会
- みんなが平等に暮らせる社会
- みんなが平和で豊かで平等に暮らせる社会
- 不正のない公平な社会
- みんなの暮らしがよくなり、みんなで協力し合える社会
- 自分のためだけでなく、地域の幸せのために立ち上がろうとした

